

令和3年8月11日からの大雨災害に関する 住民意識調査【調査結果報告書 概要版】



1 調査概要

(1) 調査の目的

令和3年8月11日から降り始めた大雨により、8月13日、雲仙温泉街の八万地獄及び小地獄地区での土砂崩れが発生し、3名の市民の尊い命が奪われました。

今後、このようなことが二度と起きないように、改めて、危険地区の再点検・整備が急務であるとともに、市民の避難行動の在り方についても、検証することが重要と本会では考えました。

このたび、鎮西学院大学との共同調査を計画し、雲仙温泉街を中心に関係団体の協力を得て、市民の皆様に緊急アンケートを行いました。今後、この調査結果を基に、防災における自治会組織の在り方や様々な地域資源との協働による災害支援ネットワークの構築に向け、「災害時 誰も見逃さない」市民運動としての第一歩とすることを目的として調査致しました。

(2) 調査方法及び回収結果

【住民世帯対象】

調査対象	雲仙地区内（5自治会内の433戸）の住民世帯 （小地獄、新湯、寺の馬場、古湯、別所）
調査方法	訪問による聞き取り調査、オンラインによる回答
調査期間	令和3年11月1日～令和3年11月30日
回収件数	200件（内 聞き取り調査数：186件 オンライン回答：14件）
回答率（回収件数/433）	46.2% （200件 / 433戸）

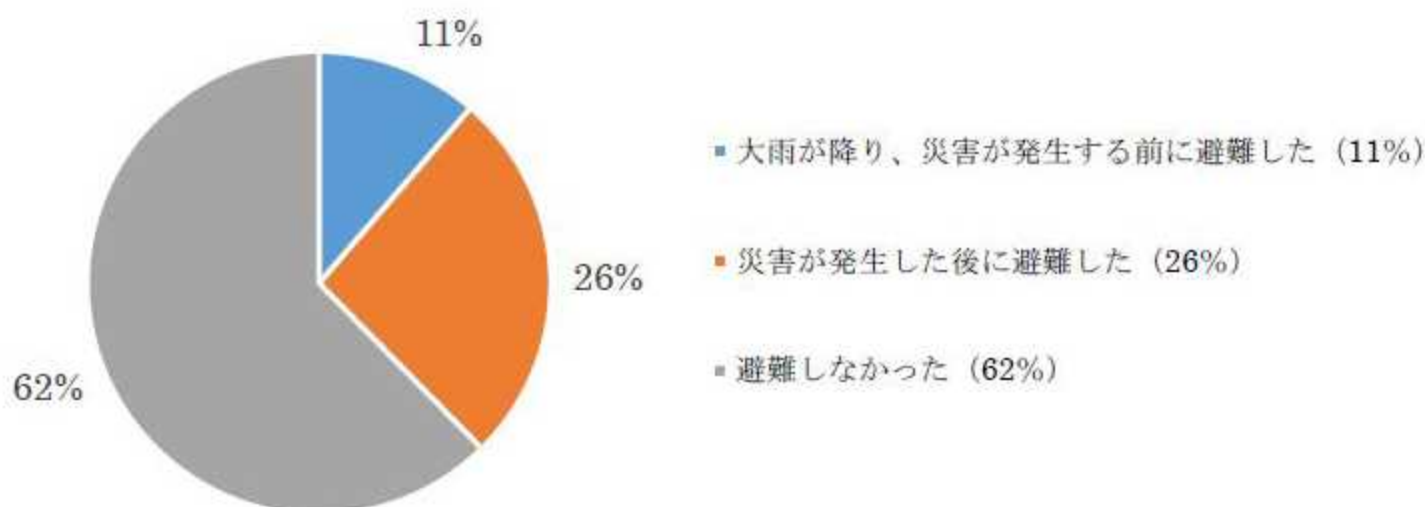
2 調査結果

(1) 戸別回答者の避難意識・行動等について

○ 今回、避難をしましたか。（有・無）

避難についての回答は、「避難しなかった」が62%、「災害が発生した後に避難した」が26%、「大雨が降り、災害が発生する前に避難した」が11%となっています。

今回の災害に対して避難をしましたか



○ 前問の「避難しなかった方」で、避難しなかった理由をお答えください。(複数回答可)

1番目の主な理由に複数回答の2番目以降の理由を加味した比率では、「自宅にいるのが安全と判断したから」が98件で54%、次いで「今まで被害にあったことがないから」が23件で13%、次いで、「被害にあうとは思わなかったから」が20件で11%となっています。

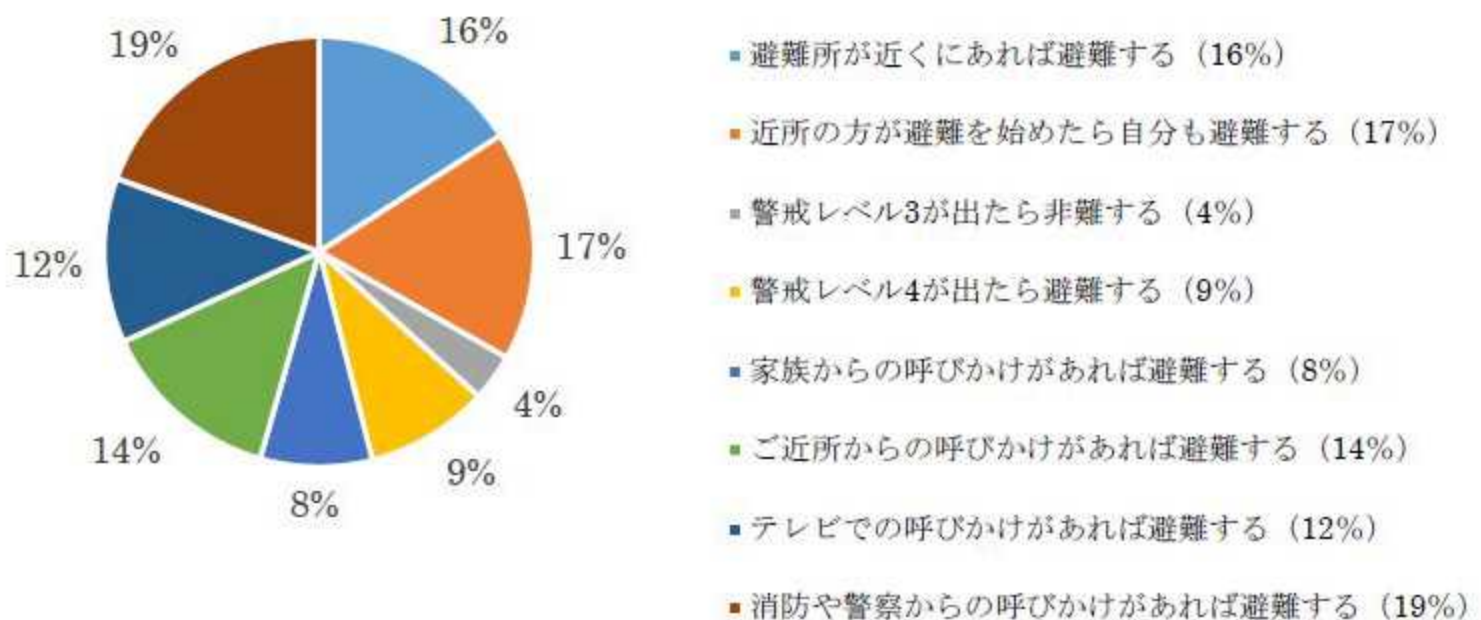
避難しなかった理由 (合計)



○ どうすればあなたは、避難行動を起こしますか。(複数回答可)

1番目の主な理由に複数回答の2番目以降の理由を加味した比率では、「消防や警察から呼びかけがあれば避難する」が44件で19%、次いで、「近所の方が避難を始めたら自分も避難する」が39件で17%、次いで、「避難所が近くにあれば避難する」が36件で16%となっています。

どのような状況であれば避難しますか (合計)



(2) 地域住民が今回の災害で感じたことについて

○今回の災害で、感じたことや被害を少なくするためにはどのようなことが必要でしょうか。ご自由にお書きください。

*感じたこと (一部抜粋)

- 今回の災害で、このようなことが我が身にも起こり得ると改めて思った。
- 迷ったら、まず避難するということを学んだ。
- まさか山が崩れるとは…、雲仙の山は固く崩れることはないと言っていた。
- いつ起きるか分からないが、少しの災害では自由がきくから自宅が良い。
- 予兆があれば、前もって避難するようにする。
- 風水害もですけど、地震が心配である。
- 隣近所に住まれている単身世帯や、障がいのある方が心配である。
- 災害があってから対策をするのではなく、事前に対策をするべきだと感じました。
- 今回の災害も私たちにとって一つの経験である。繰り返さないような取り組みが必要だ。
- 住民はこれまで避難経験がなく、緊急事態が出て避難しようとしなくて、呼びかけても避難しないと感じた。
- 様々な情報に対して、避難についてどのくらいで判断して良いかわからない。
- 自己判断ではなく、自治会長や行政の指示に従う必要がある。
- 避難指示が出たあとどのように行動すればいいのか分からない。
- 普段から周囲の土地の様子などを注意して見ておかないといけないと思った。

(3) 被害を少なくするために地域住民から寄せられた意見

*被害を少なくするためには (一部抜粋)

- 防災無線等による放送とかあっても自分の所という実感がないため、地区ごとに細かな避難指示が良いと思った。
- 近所に協力してくれる人がいる、そんな“つながり”のある地域づくりを！
- 自然災害は防ぎようがないところもあるが、地域住民同士が連絡を取り合って早めに避難することが大切。
- 自宅からでは避難場所（メモリアルホール）に行くにも、原生沼周辺が水没したりなど避難場所に行かないほうが良い場合もあるので適切な判断が必要であるとそれぞれが認識し、早めの行動をとる。
- 自分だけは大丈夫と過信せず、危険地域に住む方は常に災害情報等に対してアンテナをはって気を付けることが大切。
- 消防団に所属していたことから、近所への呼びかけをしなければと思うが、呼びかけには勇気がいる。タイミングが難しい。
- 避難しても何も起こらず、安全で被害がなかったと言えるようにしなければと思う。
- 絶対に安全とは思わず、まずは避難をする行動が大切だと思います。
- 防災グッズを準備する！

3 これからの「災害支援ネットワークの構築」を目指して

本会としましては、日頃より地域の繋がり希薄さや災害が起こる平常時からの地域のお互いの顔が見える関係づくりや避難時の「災害時、誰も見逃さない」体制の構築を図っていきたいと思います。

今後、本調査結果を自治会、宿泊施設や公的、民間施設など、皆様へ報告すると共に、避難時の「災害時、誰も見逃さない」体制の構築を協議する場を設けたいと思っています。「他人事ではなく我が事として」、二度と災害による悲劇を起こさないためにも、法的にも位置づけされた民間地域福祉の推進を担う社会福祉協議会としましては、行政と連携し、この機を逸せず「災害支援ネットワークの構築」の実現を目指したいと思います。

大変遅くなりましたが、アンケート調査に快くご回答頂きました方々に対し、深く感謝申し上げますと共に、調査結果につきましては、ここにご報告いたします。

最後に、今回のアンケート調査の実施にあたりご支援頂きました、雲仙地区の自治会及び自治会長様、雲仙温泉観光協会様、小浜町民生委員児童委員協議会様、鎮西学院大学様に深く感謝申し上げます。

令和3年12月 社会福祉法人雲仙市社会福祉協議会



高齢者等避難（警戒レベル3）